

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】令和 2 年 9 月 10 日 (2020.9.10)

【公開番号】特開 2019-33792 (P2019-33792A)
 【公開日】平成 31 年 3 月 7 日 (2019.3.7)
 【年通号数】公開・登録公報 2019-009
 【出願番号】特願 2017-155430 (P2017-155430)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 0 9
 A 6 3 F 7/02 3 0 1 C
 A 6 3 F 7/02 3 3 6
 A 6 3 F 7/02 3 3 4

【手続補正書】
 【提出日】令和 2 年 7 月 14 日 (2020.7.14)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

遊技球を用いた遊技を行う遊技領域を形成する遊技盤を備え、記録媒体に記録されている有価価値の情報の読み取りおよび書き換えを行うユニットと双方向で通信可能に構成され、内部に封入された遊技球を循環させて遊技に利用する封入式弾球遊技機であって、

遊技球を用いた遊技の進行を制御する主制御装置と、

前記主制御装置から送信される遊技に関する情報に基づいて、遊技者が遊技に使用可能な遊技球である持ち球の数を管理する枠制御装置と、

遊技者による操作に基づいて、前記遊技領域へ遊技球を発射する発射装置と、

遊技者による操作に基づいて、前記発射装置による遊技球の発射強度を初期強度から所望の強度へと調整する発射強度調整手段と、

前記発射強度調整手段によって調整された前記発射強度を固定する発射強度固定手段と

、

前記発射強度固定手段による前記発射強度の固定を解除する固定解除手段と、

前記固定解除手段による前記発射強度の解除に応じて、前記発射強度を前記初期強度に設定する初期設定手段と、

遊技の結果に影響を及ぼす不正を検出する不正検出手段と、

を備え、

前記枠制御装置は、

前記弾球遊技機における遊技状態の変化を判断する状態変化判断手段と、

前記不正検出手段が不正を検出した場合、および前記状態変化判断手段が所定の遊技状態への変化を判断する場合、前記固定解除手段に前記発射強度の解除を指示する解除指示手段と

を含むことを特徴とする封入式弾球遊技機。

【請求項 2】

前記状態変化判断手段は、前記主制御装置から送信される遊技状態を示す情報に基づいて、前記所定の遊技状態への変化を判断することを特徴とする請求項 1 に記載の封入式弾

球遊技機。

【請求項 3】

請求項 2 に記載の封入式弾球遊技機であって、
前記遊技領域は、
所定の発射強度未満で発射される遊技球が主に転動する第 1 の遊技領域と、
前記第 1 の遊技領域とは異なり、前記所定の発射強度以上で発射される遊技球が主に転動する第 2 の遊技領域と
を含み、
前記遊技盤は、
前記第 1 の遊技領域に位置する第 1 始動口と、
前記第 2 の遊技領域に位置し、開閉部材によって入球率が変化する第 2 始動口と、
前記第 2 の遊技領域に位置し、通常遊技状態より遊技者に有利な大当たり遊技状態において遊技球を受け入れ可能に構成された大入賞口と
を有し、
前記主制御装置は、
前記第 1 始動口および前記第 2 始動口への遊技球の入球に起因して、前記大当たり遊技状態を実行するか否かを判定する当否判定手段と、
所定の条件を満たす場合、前記大当たり遊技状態の終了後、前記開閉部材の 1 回あたりの開放時間を前記通常遊技状態より延長する開放延長状態を実行する開放延長実行手段とを含み、
前記所定の遊技状態への変化は、
前記通常遊技状態から前記大当たり遊技状態への変化と、
前記大当たり遊技状態から前記通常遊技状態への変化と、
前記開放延長状態から前記通常遊技状態への変化と
の少なくとも 1 つを含むことを特徴とする封入式弾球遊技機。

【請求項 4】

前記所定の遊技状態への変化は、遊技を終了する状態への変化を含むことを特徴とする請求項 1 から請求項 3 までのいずれか一項に記載の封入式弾球遊技機。

【請求項 5】

請求項 4 に記載の封入式弾球遊技機であって、
前記状態変化判断手段は、
前記主制御装置から待機状態を示す信号が出力された状況と、
前記持ち球の数がなくなってから所定時間が経過した状況と、
前記持ち球の数がなくなってから最後の遊技球が前記遊技領域から回収された状況と、
前記発射装置に対する遊技者による操作がなくなってから所定時間が経過した状況との少なくとも 1 つの状況を、遊技を終了する状態への変化として判断することを特徴とする封入式弾球遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

(1) 本明細書に開示する一形態における封入式弾球遊技機は、遊技球を用いた遊技を行う遊技領域を形成する遊技盤を備え、記録媒体に記録されている有価価値の情報の読み取りおよび書き換えを行うユニットと双方向で通信可能に構成され、内部に封入された遊技球を循環させて遊技に利用する封入式の弾球遊技機である。この封入式弾球遊技機は、遊技球を用いた遊技の進行を制御する主制御装置と；前記主制御装置から送信される遊技に関する情報に基づいて、遊技者が遊技に使用可能な遊技球である持ち球の数を管理する枠制御装置と；遊技者による操作に基づいて、前記遊技領域へ遊技球を発射する発射装置と

；遊技者による操作に基づいて、前記発射装置による遊技球の発射強度を初期強度から所望の強度へと調整する発射強度調整手段と；前記発射強度調整手段によって調整された前記発射強度を固定する発射強度固定手段と；前記発射強度固定手段による前記発射強度の固定を解除する固定解除手段と；前記固定解除手段による前記発射強度の解除に応じて、前記発射強度を前記初期強度に設定する初期設定手段と；遊技の結果に影響を及ぼす不正を検出する不正検出手段とを備える。前記枠制御装置は、前記弾球遊技機における遊技状態の変化を判断する状態変化判断手段と；前記不正検出手段が不正を検出した場合、および前記状態変化判断手段が所定の遊技状態への変化を判断する場合、前記固定解除手段に前記発射強度の解除を指示する解除指示手段とを含むことを特徴とする。この形態の封入式弾球遊技機によれば、主制御装置から枠制御装置への片方向通信とすることによって、枠制御装置を介した主制御装置に対する不正行為を防止した上で、不必要に発射強度が固定され続けることを、遊技状態の変化に基づく枠制御装置の判断によって回避できる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

(2) 上記形態の封入式弾球遊技機において、前記状態変化判断手段は、前記主制御装置から送信される遊技状態を示す情報に基づいて、前記所定の遊技状態への変化を判断してもよい。この形態の封入式弾球遊技機によれば、遊技の進行を制御する主制御装置からの遊技状態を示す情報に基づいて発射強度の解除を判断するため、発射強度の固定が不用意に解除されることを防止できる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

(3) 上記形態の封入式弾球遊技機において、前記遊技領域は、所定の発射強度未満で発射される遊技球が主に転動する第1の遊技領域と；前記第1の遊技領域とは異なり、前記所定の発射強度以上で発射される遊技球が主に転動する第2の遊技領域とを含んでもよい。前記遊技盤は；前記第1の遊技領域に位置する第1始動口と；前記第2の遊技領域に位置し、開閉部材によって入球率が変化する第2始動口と；前記第2の遊技領域に位置し、通常遊技状態より遊技者に有利な大当り遊技状態において遊技球を受け入れ可能に構成された大入賞口とを有してもよい。前記主制御装置は、前記第1始動口および前記第2始動口への遊技球の入球に起因して、前記大当り遊技状態を実行するか否かを判定する当否判定手段と、所定の条件を満たす場合、前記大当り遊技状態の終了後、前記開閉部材の1回あたりの開放時間を前記通常遊技状態より延長する開放延長状態を実行する開放延長実行手段とを含んでもよい。前記所定の遊技状態への変化は、前記通常遊技状態から前記大当り遊技状態への変化と；前記大当り遊技状態から前記通常遊技状態への変化と；前記開放延長状態から前記通常遊技状態への変化との少なくとも1つを含んでもよい。この形態の封入式弾球遊技機によれば、第1の遊技領域と第2の遊技領域との間で遊技球の打ち分けが必要なタイミングで発射強度の固定を解除できる。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

(4) 上記形態の封入式弾球遊技機において、前記所定の遊技状態への変化は、遊技を終了または中断する状態への変化を含んでもよい。この形態の封入式弾球遊技機によれば、遊技者が遊技を終了するタイミングで発射強度の固定を解除できる。る。